ANNUAL REPORT

2022年度 年次報告書

POW
PROTECT OUR WINTERS.JP

Photo Ayako Niki

代表理事メッセージ

MESSAGE From Our **Director**

Photo Yoichi Watanabe

いつも私たちの活動をご支援、そして応援してくれている皆様、誠にありがとうございます。

私たちが活動を始めてから早いもので、すでに4年の年月が経ちました。

アウトドアフィールドを活動の場とする私たちが、気候の変化によって変わりゆく自然や雪の姿を目の当たりにし、「自分たちにできることがあるならば、行動を起こしたい」という想いでスタートしたこの活動も、皆様のお力添えのおかげで様々なエリアに広がることが出来ています。

昨年度は、私たちのベースである長野県はもちろん、日本全国のスノーエリアで様々な活動が生まれました。

自分（代表・小松）の地元でもある北海道・ニセコでは、ローカルからお声がけいただき、スノー＆アウトドアコミュニティーとして気候危機問題に取り組むことへの思いを共有する機会をいただきました。また、その翌日にはよりアウトドアコミュニティーに焦点を当てた「POW ミーティング in Niseko」を開催し、同じ思いを持つたくさんの仲間たちと深くつながることが出来ました。

スキー文化伝来100周年を記念する兵庫県神鍋エリアの式典に参加し、「100年先にも雪文化を残そう」という願いのもと、連携が始まりました。1月下旬で本来ならばちょうど大雪のタイミングでの訪問でしたが、2日前までは全く雪がないという状況。すでに気候危機の影響を強く受けている西日本エリアの現状に触れられたことも大きかったです。

スノーカルチャーを伝えるメディア Stuben Magazine には、地元白馬エリアの取り組みや POW JAPAN の活動を大きく取り上げていただきました。また、同誌編集者でありフォトグラファーの渡辺洋一氏の紹介により国連が主催する国際会議の壇上で話す機会もいただきました。私たちスノーコミュニティーが置かれた現状や未来に向けた思い、私たちの取り組みなどについて話すことが出来ました。

昨年度は各地で POW の活動を広めてくれているアンバサダーたちとの繋がりが深まった年でもありました。初めて一同に集まり開催した「アンバサダーサミット」では、様々な講師の方のお話しを聞き、気候危機問題や社会運動に向き合うための学びを得ることが出来ました。同じ場所に集まることでそれぞれの思いや経験などを共有し、より強く繋がることが出来たことも大きな収穫でした。

これらの動きが、アンバサダー中心となった新しい活動を生み、年末に北海道で行われた「POW POW Session」などの開催につながりました。アンバサダーや滑り手が主体的にリードするアクションが増えていくことは、未来につながる理想的な変化です。そうした新しい動きが生まれることで、より多くの人々やコミュニティーと繋がっていくことでしょう。

2022年からの1年は、コロナ騒動も一段落し、気候危機に対する関心も高まった年と言えます。しかしその反面、世界の現状はまだまだ明るいとは言えません。気候危機はますます深刻化し、一つになるべき世界は分断が進んでいます。日本の政策においても、化石燃料への依存、原子力への依存が問題となっており、世界から非難の目を向けられています。

だからこそ私たち日本が変わることには大きな意味があり、大きな責任があるのではないでしょうか？

日本全体、日本の政策が変わるのにはまだまだステップが必要ですが、私たちにも小さな変化を生み出す力があります。小さな変化が重なることで、より大きな変化へと繋がっていきます。気候危機によってすでに脅かされている雪文化の街、アウトドア文化の街は今まさに変化を必要としています。私たち POW JAPAN はそうした変化を生み出し、大きな変化の一翼を担っていくことを全力で続けていきます。どうかこれからも、私たちの活動を応援してください。より良い未来、雪のある未来を目指して。

ありがとうございます。

Protect Our Winters Japan
代表　小松吾郎

Photo Mika Yamakawa

MISSION
VISION
GOAL

Mission ミッション

アウトドア アクティビティに情熱を注ぎ、
そのフィールドやライフスタイルを気候変動から守るために行動する仲間たちの力となる。

Vision ビジョン

私たちの愛するフィールドやライフスタイルを気候危機から守るため、脱炭素社会を意識した選択と行動がスノーコミュニティ＊のスタンダードになっている。

また、それぞれが身近なコミュニティと協働しながら社会づくりに積極的に関わることで、「社会の仕組み」の変化をもたらす力となっている。

スノーコミュニティは気候危機の解決を後押しする市民ムーブメントとして大きな影響力を持ち、国の重要な気候変動対策やその決定へのプロセスに貢献し、地方自治体や企業など日本全体で脱炭素化が加速している。また、スノータウン＊のサステナブル化＊が着実に進み、ゼロカーボンと地域内循環＊の両立を目指す脱炭素社会の一つのロールモデルとなっている。

＊スノーコミュニティ：スキーヤー・スノーボーダー（650万人）、アウトドアブランドやメディアをはじめとする関連企業、スキー場（500箇所超）、スノーリゾートを持つ地域・自治体（日本の約30%）

＊スノータウン：スキー場とその周辺自治体＊サステナブル化　：エネルギーの地産地消、省エネ、省資源、食の地産地消、ゴミ削減、リサイクル、生態系の再生など

＊地域内循環：お金や資源が地域内を循環することで、地域に持続的に価値を生み出す自立した構造

GOAL ゴール2022：コミュニティの拡大

2024年以降に予定されるエネルギー基本計画やNDCの改訂は、日本が1.5度目標や2050年ゼロカーボンに整合したエネルギー政策へと転換する"最後"のチャンス。このタイミングにムーブメントのうねりを大きくして、スノー、そしてアウトドアコミュニティ全体として声を届けるためには、より多くの仲間の存在が必要です。
2022年度は「コミュニティの拡大」を大きな軸として、とくにアンバサダーやパートナー企業とのコミュニケーション強化や協業に注力しながら、アクションやキャンペーンを組み立ててきました。

OUR COMMUNITY

発足から4年、おかげさまで"冬を守る"ために行動する仲間たちの輪は広がり続け、私たちの想像を超えるスピードで大きなコミュニティへと近づいてきました。2022-23シーズンは、パートナーが9社、アンバサダーが3名新たに加わり、SNSのフォロワーとメールニュース購読者の総数は前年比で1.5倍に。また2022年秋にはボランティアチーム"POW CREW"が発足。自然で遊ぶことを楽しみながらも、それぞれの立場や場所でアクションし続ける、誇らしい仲間たちです。

POW COMMUNITY

SNSフォロワー
13,130人

メールニュース購読者
2,860人

POW CREW
130人

寄付者
2,050人
（2019年2月からの累計）

ショッププログラム加盟
約140

パートナー
44社

アンバサダー
23人

（2023年6月時点）

CASE STUDY | ACTION 2022

AMBASSODRS SUMMIT

POW JAPAN発足以来、何度も議題にあがり、その必要性を強く感じていた「アンバサダーサミット」。一人ひとりがすばらしいパワーを持つ各地のアンバサダーが、同じ場所に集まり、同じ時間・課題・ビジョンを共有したときの爆発力を確信していましたが、ついにその時がきました。

サミットの何ヶ月も前から事務局メンバーが時間をかけてこだわったのは、サミット全体の構成デザイン。「コミュニケーション強化とエンパワーメント」という目的を設定し、アンバサダーたちがこのサミットを終えて自分たちのフィールドへ戻ったとき、仲間たちを巻き込んで、ときにPOWの事務局やアンバサダー同士、サポート企業にヘルプを出しながら、アクションを起こせるように、自信を持って帰ってもらうことをイメージして、3日間をデザインしました。

講演やワークショップだけでなく、アクティビティタイムを取り入れたり、食事はビーガンやベジタリアン、ジビエや地元産のお肉を使ったメニューを提供してくれるローカルの飲食店にケータリングをお願いし、カトラリーはすべて持参してもらう、など細かなところまで「できること」をやってみました。

少し緊張した面持ちで集まった1日目。「伝える」「共感する」は仲間作りの基本、まずはコミュニティ・オーガナイジングの手法を用いて「自分の価値観を人に伝える」というワークショップからはじまります。2日目は「気候変動の現状を知る＆行動のインスピレーションを得る」をテーマに、気候変動問題に向き合う様々なゲスト講師たちによる講演をみっちりと。3日目は、「アウトプット」の日として、前日までのインプットをベースに、誰と、どんなアクションをしていきたいかを仲間たちと考えるワークショップを実施。インプットとアウトプットが凝縮された（かなりハードとも言える）3日間のプログラムでしたが、自然で遊ぶことを愛するアスリートたちの圧倒的な集中力、嘘のない正直な発言、ポジティブなエネルギーが相互に作用しあって、化学反応しているような、発酵しているような、事務局メンバーが想像していた以上に有意義な時間となりました。

サミット終了後すぐに、佐々木大輔を中心とした北海道在住のアンバサダーたちから「北海道でセッションをしよう!」という声があがり、年末にはPOW POW SESSIONを実現。100名をこえる参加がありました。サミットで撮影したアンバサダーのメッセージビデオはシーズンスタートに合わせて公開し、Iinstagramにて9.7万回再生、パートナーのスキー場やショップ、イベントなどでも放映いただき、アンバサダーたちの声が多くの滑り手に届きました。

今回のサミットは、たくさんの仲間を巻き込んで一緒に創っていくこともチャレンジでした。いくつかのパートナー企業にはサミットへの参加だけでなく企画内容を決める段階から協力いただき、サミット終了後には各社の社員に向けた気候変動講習や共同プロジェクトが進むなど、パートナーとの間にも新たなシナジーが生まれました。POW CREW（ボランティアチーム）は全体のサポートだけでなく素晴らしい懇親会の企画・運営をしてくれました。また、カメラマン、フィルム、ライターという本当に心強いクリエイティブチームに3日間の様子を記録してもらい、レポートとムービーという素晴らしいアウトプットを通して皆さんにお届けすることができました。

上記の仲間たちを含め、このサミットに関わるすべての人たちによって、限られた時間・人数の中で行われたサミットとそのエネルギーの波が、波紋のように広がっていったのです。それぞれの価値観や大切にしていること、目指す方向を共有し、それぞれの立場「だからこそ」できるアクションを起こすことで、有機的に作用しあい、大きなムーブメントになっていく。サミットは、POW JAPANが目指すことをクリアにしてくれる機会でもありました。

当日の様子を、レポートや動画にてご覧いただけます。

- 青木湖畔で行われた2泊3日の「POW JAPAN アンバサダーサミット2022」密着レポート
- Youtube【日本初!アンバサダーサミット開催】POW JAPAN Ambassador Summit 2022

ローカルからウネリを起こす

ローカルの滑り手を中心としたムーブメントが各地で広がっていくことは、私たちがこれまで描いてきたビジョンでもあり、「アウトドア アクティビティに情熱を注ぎ、そのフィールドやライフスタイルを気候変動から守るために行動する仲間たちの力となる」というPOWのミッションを果たすステージにも近づきつつあります。ここで紹介するエリアの他にも各地へウネリが届きはじめています。

ニセコ（北海道）

2022年8月、世界中から良質な雪を求めて滑り手が集まる街・ニセコにて「POW ミーティング」を開催。その目的は、ニセコエリアに暮らすスノーボーダー、スキーヤー、自然を愛する人たちが集い、気候変動についての理解を深め「自分たちにできることを考える」、そして「ニセコ発のローカルムーブメントを起こすきっかけを作る」こと。ローカルのパートナーたちのサポートをおかげで、予想をはるかに超える100名以上のローカルの滑り手たちが集まり、学びや会話を通して、ニセコでのムーブメントの種がまかれました。2023年4月にはニセコで環境活動を行ってきたスキーヤーが、滑り手やPOWのパートナー企業などを巻き込み「Niseko Climate Ride -滑れる未来を守ろう-」を開催し、「再エネ100%のリフトに乗りたい」などメッセージを掲げて仲間たちと滑走。このウネリがさらに広がるよう、引き続きニセコの仲間たちとコミュニケーションを続けていきます。

神鍋高原（兵庫県豊岡市）

西日本エリアは日本の雪山の中でも温暖化の進行を痛切に感じ、気候変動の影響に直面する地域。1月中旬にも関わらず雪不足により全3つのスキー場が臨時休業となった神鍋高原では、日高神鍋観光協会が100年後も雪が残る未来に向けて行動するとして、”カーボンニュートラルの実現” や”サステナブルな観光地づくり”など4つを掲げた「神鍋高原ゆきみらい100年宣言」を表明。POW JAPANはそのセレモニーと「気候変動 × 観光を考える 勉強会」にご招待いただき、”スキーヤー、スノーボーダーから見る気候危機”をテーマとしてお話しさせていただきました。実はこの日、強烈な寒波が西日本各地に影響を及ぼし、数日前まで営業できなかったスキー場には最高の雪が。「いつか滑れなくなるかもしれない」と悠長なことを言っていられない西日本の現状を突きつけられた一方で、そんな危機的状況だからこそ、本気で”雪のある未来”のために行動するローカルの仲間たちの姿勢に強く心を動かされました。

宣言の詳細

2023年のアクションと
アウトドアコミュニティの持つチカラ

Protect Our Winters Japan 事務局長
髙田翔太郎

「この10年間に行う選択や実施する対策は、現在から数千年先まで影響を持つ」
これは、IPCCが2023年3月に発表した第6次報告書に記載されたメッセージ。その上で、地球の気温上昇を1.5度に抑えるために、「2035年までに温室効果ガス排出量を2019年比で60%削減すること」を世界に求めました。

日本において、2023~24年は"気候危機に対して社会がどう応答するか"が問われる、とても重要な期間といえます。2019年に活動をスタートしたPOW JAPANにとっても一つのマイルストーンであり、この問題に取り組む多くの方々も共有している事実です。

日本の2035年の削減目標（NDC）は2024年末のCOP29*で提出される予定。また、この削減目標に影響を与える第7次エネルギー基本計画も2024年に改定される見通しです。

日本の気候変動対策において、この2つの目標と計画は重要な意味を持ちます。
なぜなら、この目標を実現するために必要な政策が練られ、実行され、そのルールや目標値に応じて自治体や企業、私たちは脱炭素に取り組むことになるからです。現状ではまだまだ野心的な目標設定ができていない日本政府に対して、高い目標設定を求めて、耳に届くほどの声を上げられるのか、目に見える動きを示すことができるのか。これが私たちの2023年の課題です。

今年9月、国連気候サミットに合わせ世界各地で様々なアクションが予定されていますが、日本でも過去最大のアピールを目指して、すでにイベントやマーチの準備が始まっています。デモやマーチに馴染みは少ないかも知れませんが、グレタ・トゥンベリやBlack Lives Matterなど、共感を広げ時代を動かした事例だけでなく、小さな運動が社会の変化を促した例は数知れません。他の団体や市民、若者たちと共に作り上げるこの秋のアクションに、POW JAPANやアウトドアコミュニティがどれだけのエネルギーを注げるのか、そしてインパクトを出せるのか、私たちにとっても大きなチャレンジの一つです。

また、気候の影響を最前線で、ダイレクトに感じている産業であるスキー場。当事者による解決に向けた意思と行動は、自分たちが想像する以上の強いパワーを秘めていますし、そのストーリーは人の心をも動かします。今秋、「スキー場のサステナブルな取り組みを推し進める」ことを目的とした新たなプロジェクトを立ち上げます。この成功にはスキー場を利用する立場のスキーヤー、スノーボーダーひとり一人の関わりが欠かせません。自分たちの遊び場をグリーンで（もちろん白いままで）、よりクリーンな場所として未来に繋いでいくことに、みなさんの力を借りながら本気で取り組んでいきたいと思っています。

ここまでに書いた通り、今年から来年にかけてのPOWのアクションは、日本の「エネルギー政策における高い目標設定」に影響を与える、という目的をもってプランしています。これは、気候危機を回避する、という地球規模の連帯に自分たちがいかに貢献できるかを考え抜いた末に、出てきた答えです。

一方で、気候危機を引き起こしてる原因に目を向け、その原因となる仕組みや慣習、価値観、行動などを今の時代に合わせて変容させていくことも、同じく重要なことだと感じています。これはPOWの活動を重ねる中でわかってきたことです。その原因は社会の至るところで見られます。自分の暮らしや働く職場、あるいは、勤める企業の取り組みなど、想像してみてください。

無尽蔵に資源を使い、自然を壊していくのではなく、資源をシェアし、自然をケア、再生させていくことはアウトドアコミュニティが大事にしている価値観です。モノを消費する側にだけに居座るのではなく、生産の過程を知り、触れることは、日々の選択や行動に変化を生み出すきっかけになるかも知れません。THE NORTH FACE、patagonia、ARC'TERYXなどのアウトドアブランドが合同で行ったリペアイベント「DO REPAIRS」は、モノを長く使うことを支持する業界の姿勢を示す具体的なアクションでした。

トップダウンで一極集中する社会・政治の構造に一石を投じ、市民参加によるボトムアップで、小さな単位（地方、コミュニティ）から変化を生み出していく動きは、すでに各地で始まっています。4月の地方統一選のタイミングで開催した滑り手議員によるトークイベントでは、社会づくりに関するたくさんのヒントをゲストの方々からもらいました。その中でも印象的だったのは、POWアンバサダーの河野健児さんが野沢温泉村の観光協会長を務める中で一番強く感じることとして、「より地域に深く関わることで、さらにこの地域が好きになった」と語ったこと。地域（や地球）が抱える課題に向き合い、それぞれの立場で関わることは、本来は"大変"で"面倒なこと"ではなく（時にハードな局面もありますが）、とってもポジティブで未来志向なことだということをあらためて感じさせてもらう機会でした。

アウトドアコミュニティ（あるいは、アウトドアプレイヤー）は資本主義の価値観の中で重要視されるような"もの"や"こと"との接点が多くはないために、社会における存在感は小さいのかも知れません。しかし、気候変動や生物多様性など自然環境の危機的な状況に直面している今こそ、我々が山や川、海のフィールドで培ってきた"自然と調和する在り方"は社会の進むべき一つのヒントを提示できるのではないか、と感じています。POWはその具体的な一つの形を体現するために活動を重ねていますが、その体現には多くの仲間や組織との関わりを必要としています。地域や分野、強みや経験が多種多様であればあるほど、この活動は大きなパワーを持ちます。

POW JAPANを支え、行動してくれるスキーヤー、スノーボーダー、スキー場、アウトドア関連企業、そして、自然が大好きな仲間たちと共に、"愛するアウトドアフィールドやライススタイルを気候変動から守る"というミッションに挑戦していきます。
この挑戦の過程で待っている出会いや感動をみなさんと分かち合えること、とても楽しみにしています。

登壇実績・メディア

登壇実績：

Hot Planet Cool Athletes/気候変動講習：**11**箇所で実施
登壇/出演：**6**回

メディア掲載：

(re)generate!MAGAZINE
「冬を愛する」私たちが「冬を守る」ために始めた事。

Akimama
私たちの未来を守る! 正義の味方が一堂に会したPOWアンバサダーサミットが開催

信濃毎日新聞
雪山を守るため 気候変動学ぶ

Steep
雪を守るために活動している団体がある・POW（Protect Our Winters）とは？

BuzzFeed
「将来はこの地域に雪があるか分からない」スキーヤーが感じる危機。
今あなたに知ってほしい日本の“冬の未来”

STAFF

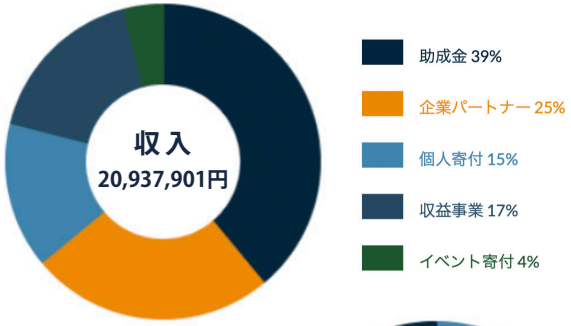
理事会

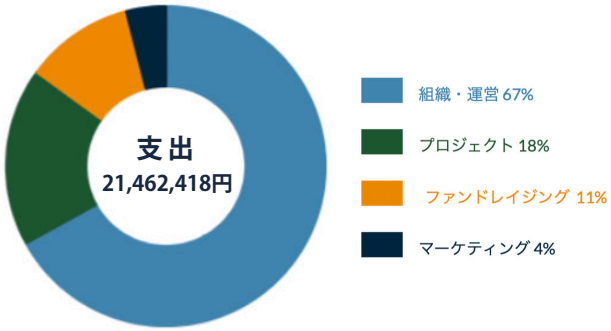
小松 吾郎 代表理事
玉井 太朗 理事
中村 陽子 理事
中島 力 理事
藤田 崇宏 監事

事務局

髙田 翔太郎 事務局長
脊戸柳 武彦 副事務局長
小松 由紀子
鈴木 瞳
笹田 知里

FINANCE 2022-23 財務報告





AMBASSADOR

清澤 恵美子

岡本圭司

市川貴仁

佐々木玄

中山悠也

丸山春菜

小西隆文

植木鹿一

小野塚彩那

河野由貴子

河野健児

佐藤亜耶

橋本通代

小松吾郎

中島力

鈴木彩乃

玉井太朗

佐々木大輔

中村陽子

山崎恵太

五明淳

鈴村新

大池拓磨

PARTNER

SILVER

KEEN
GENTEMSTICK
BOA
grooves
Goldwin
FAR EAST SNOWSPORTS
THE NORTH FACE

BRONZE

patagonia
ARC'TERYX
NANAMI NORTH HOUSE
and MASK
Hakuba Lion Adventure
OVERVIEW COFFEE
SLOPE PLANNING
BURTON
yukiyama
DIGGIN' MAGAZINE
FALLINE
Happoone
STATIC
JONES
UPLND
かたしな高原
HAKUBAVALLEY
ImPlay
NOZAWA Sports Thanx
リゾートバイト.net
imageMILL
Yamada
HAKUBA HAUTHIE MOUNTAIN RESORT
MAMMUT SWISS 1862
unfudge
長野県索道事業者協議会
白しらかば 2001
SNOW HEAVEN
SPACEKEY
TATETOSO
mountainflow eco-wax
THE COSMIC SAUNA
RHYTHM JAPAN
エイプル Hakuba GORYU
MIZOGUCHI
絆 KIZUNA TRAVEL
PeakPerformance

ご支援のお願い

POW JAPANは非営利型の一般社団法人として活動を行っています。そのため、私たちの活動の大部分は、皆さまからのご寄付とご支援に支えられています。
雪山や冬を愛する仲間のサポートが、POW JAPANの活動をよりパワフルで効果的なものへと押し上げてくれているのです。継続的なご支援に心から感謝申し上げます。
引き続き皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

https://protectourwinters.jp/supporter/

POW JAPAN連絡先

一般社団法人Protect Our Winters Japan

info@protectourwinters.jp

Photo Ayako Niki